

町公民館だより

編集 日野町公民館 〒689-5131 日野町黒坂1243番地 1
電話：74-0212 FAX：74-0105
E-mail：kouminkan@town.hino.tottori.jp

一年間の生涯学習の積み重ねが身を結ぶ

▼おしどり学園閉講式

一年間の生涯学習を振り返って 修了証を手に笑顔の学園生

3月22日、おしどり学園の閉講式が行われました。多くの来賓の出席の中で、学園生が一年間のおしどり学園での学習を振り返る式典となりました。

学園生には、相互親睦の精神をもって積極的に生涯学習に取り組んだことをたたえて修了証が贈られ、学園生を代表して野坂正昭さんが受け取りました。

また、一年を通して一度も欠席のなかった、岩瀬益子さん、谷川美智子さん、松原笑子さん、山根智恵子さんの4人には皆勤賞が贈られました。



▲皆勤賞の岩瀬さん（左）

「明るく、楽しく、元氣よく」 安全確認の大切さを知って

閉講式終了後には、「安全はすべてに優先する」大事な命、財産を守るために」と題し、黒坂警察署長の柴田互^{わたる}さんが講演を行いました。

柴田さんは、はじめに「明るく、楽しく、元氣よく」と、安全確認には、利き目や視野、反応速度が密接にかかわっていることを説明しました。実際に、真横でじゃんけんをしてみると、しっかりと首を振らなければ見えなことがわかりました。また、二人一組で、割り箸を一人が上から落とし、もう一人がそれを手でつかむ動きをしてみました。すると、みんな思い通りに箸をつかむことができず、会場は笑いに包まれることに。学園生は、目から入った情報が頭を通して伝わるまでの自分の反応速度について知ることができました。

皆さんが安心して暮らせるために

次に、柴田さんは、「安全と安心」の関係について、理論

的な説明を行いました。「安全と安心の感じ方は、①安全であり、安心だと思う、②安全



▲「気軽にご相談ください」と柴田さん

であるが不安を感じる、③危険であるが安心と考える、④危険であり不安を感じる、の4つに図表化できる」「いくら安全だといわれても、不安を持つことはあり個人差がある。皆さんが安全を確保しながら、より安心して暮らせるよう、警察として日々取り組んでいます」と話しました。

特殊詐欺や交通事故の被害者・ 加害者にならないために

「黒坂警察署の最優先課題は、『特殊詐欺防止』と『交通（死亡）事故被害加害防止』です」と柴田さん。特殊詐欺として、

巧妙な手口で現金を振り込ませる還付金詐欺やオレオレ詐欺、架空請求詐欺の実態と防止策を紹介しました。また、交通（死亡）事故被害加害防止として、町公民館前の道幅や横断歩道などの道路情報を絵にして、歩行者や運転者への注意点をあげ、事故防止を呼び掛けました。

健康で幸せに暮らすために 必要なものとは？

最後に、柴田さんは、「健康で幸せに暮らすための教育と教養」として、次の2つをあげました。

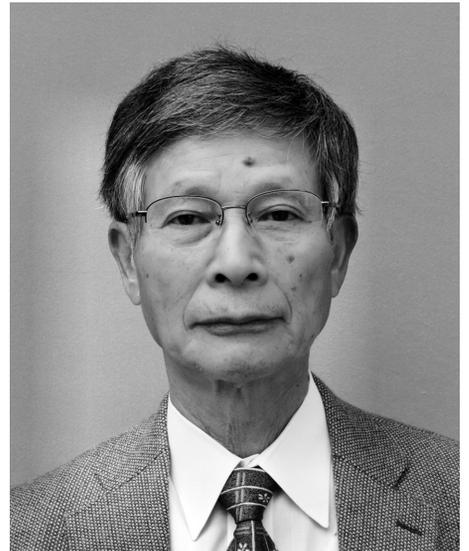
①「今日、行く（教育）とところがある」 ②「出かけることによる身なり服装に注意する。人とあいさつや会話をすることで脳が活性化する」

②「今日、用（教養）がある」 ③「これまでの知識・知恵を後輩に教える・伝える」

柴田さんが送ったメッセージは、学園生のさらなる向上心に火をつけたようです。そして、黒坂警察署がより身近に感じられた一日となりました。

「青少年育成県民大会」に参加して

日野町青少年育成会 会長 長尾 克正



「あの子もこの子も地域の宝
ひと声かけて育てよう」
青少年育成県民大会の幕開け

3月12日、倉吉未来中心小ホールにおいて、50周年記念「青少年育成鳥取県民大会」が開催され、県内各市町村から多数の参加があり、盛大に行われました。日野町から4名出席しました。この大会も地震、大雪による自然の脅威にさらされ順延を繰り返しましたが、ようやく天候も快晴のもと開催となりました。

この大会の趣旨は、青少年の健全育成に向けた県民運動を一層推進し「あの子もこの子も地域の宝ひと声かけて育てよう」の新しいスローガンのもと、決意も新たに進められるものです。オープニング

セレモニーでは、地元の小中学生24名による鼓魂組曲「打吹童子ばやし」が開催に花を添えました。

「家庭の日」作品表彰
銀羽紫紀さんが優良賞を受賞

大会は、青少年育成鳥取県民会議の八村会長の開会あいさつに続き、鳥取県議会の藤縄副議長に祝辞を賜り、その後、家庭の日の絵画・ポスター作品募集の表彰式がありました。日野町からは、日野中学校3年生の銀羽紫紀さんの作品が優良賞を受賞されました。続いて、少年の主張鳥取県大会の最優秀作品の発表や特別功労者の表彰、関金子供歌舞伎（地域の伝統を受け継ぐ子どもたち）のDVD上映が行われました。

子どもをサポートするのが大人の務め。日ごろの心がけを大切にしてほしい

ほどなく、平井鳥取県知事がご多忙の中到着され祝辞をいただきました。ペアレントコントロール、危険ドラッグ

グ、出会い系サイトによる児童被害などについて、子どもをサポートするのは、大人の務めであり、成果が一朝一夕に生まれるものではないが、日ごろの心掛けが大事ななどのお言葉があり、会場が和やかな雰囲気になりました。

現代社会で子どもは日々成長している。大人の価値観を押し付けず見守ることも大切

続いて、NPO法人「山科醍醐こどもひろば」の村井理事長が、「子どもの明るい未来の創造」と題して講演を行いました。子どもの貧困について、データに基づいた説明を受けました。

私たち大人は、子どものころ、自らの生きてきた時代、着るもの、履物、食べるものなど、十分でない時代を経験してきました。何か問題が起きると、これくらいのことには、我慢できるだろうとか、一昔前の時代の経験を子どもに押し付けようとしています。

しかし、大人が現在の生活の中で子どものころの生活が出来る訳はありません。少子高齢化や社会構造の変化、考え方の多様化、情報技術の飛

躍的進歩、進むグローバルズムなど過去に経験したことのない社会の中で子どもたちは成長しています。

未来の子どもたちへ。
さまざまな問題の解決に向け
普段の意識づけが必要

今の子どもが感じる「困りごと」に意識を向けることや課題への気付き、子どもと共に指導者としてではなくコミュニケーションを図る、小中学校を応援する、子どもが困っている問題の解決にこだわろう。講演を聞いた中で、私が強く感じた事柄も含めて、普段から意識を持つことが重要なことだと理解しました。また、日野町で頑張っている日野高生も応援しようと、改めて思いました。

最後に未来の子どもたちへのメッセージが朗読され、閉会となりました。

私も一年間、青少年育成会の事業に携わることができましたこと、委員の皆さまをはじめ多くの皆様のご支援・ご協力をいただき、ありがとうございました。